

日清製粉グループ 第2四半期連結累計期間決算、通期連結業績予想

当第2四半期は売上高2,268億78百万円、経常利益136億64百万円。

[平成22年3月期第2四半期連結累計期間決算]

㈱日清製粉グループ本社（社長 村上 一平）の平成22年3月期第2四半期連結累計期間につきましては、世界的な景気悪化の影響を受け、引き続き個人消費が低迷するなど市場環境が厳しさを増す中、主力事業の食品事業において消費者の皆様の生活防衛意識に応えた新製品を開発・販売し、広告宣伝活動を積極的に推進するなど、各事業において売上げ拡大施策を実行しました。一方、コスト面に関しましては、昨年9月の製粉東灘工場の本格稼働を始め、グループを挙げたコスト削減に取り組みました。そのような中、本年4月に3年ぶりに輸入小麦の政府売渡価格が平均14.8%引き下げられたことを受け、製品価格改定を実施いたしました。

また、本年4月には平成22年度までの2か年の新経営計画「日清製粉グループ行動計画GO,2010」をスタートし、その目標達成に向けた取組みを各事業において着実に進めております。

この結果、第2四半期連結累計期間の業績は、売上高は2,268億78百万円（前年同期比98.0%）となりました。利益面では、各事業におけるコスト削減及び海外事業における出荷拡大等により、営業利益は121億82百万円（前年同期比124.3%）、経常利益は136億64百万円（前年同期比122.1%）、四半期純利益は83億70百万円（前年同期比155.1%）となりました。なお、当期の中間配当につきましては、株主の皆様のご支援、ご期待にお応えするため、当初予想より1円増配し、1株当たり10円とさせていただきました。

[平成22年3月期通期連結業績予想]

第2四半期連結累計期間の業績は順調に推移いたしましたが、国内景気に回復の兆しはあるものの、先行きに対する不安から個人消費が引き続き低迷するとともに、消費者の皆様は節約志向は継続するものと思われます。当社グループの主力事業である製粉事業及び食品事業におきましても、当面、厳しい販売環境の継続が見込まれるとともに、国際穀物相場や為替相場の動向及び原油価格の上昇が、小麦粉の副製品であるふすまの販売価格や各事業のコストに影響を及ぼすことが考えられます。また、景気回復に時間を要すると、エンジニアリング事業及びメッシュクロス事業の第3四半期以降の業績に影響を受けることが懸念されます。

そのような中、本年10月に輸入小麦の政府売渡価格が5銘柄平均で23%引き下げとなりましたことを受け、コスト変動に応じた価格改定を実施してまいります。

各事業におきまして引き続き、積極的な広告宣伝の継続や必要な戦略費用の支出も含め販売促進活動に取り組み、出荷拡大に努めるとともに、新経営計画において策定した行動計画を着実に実行し、当初見通しを上回る業績の達成を目指してまいります。

以上により平成22年3月期の連結業績予想につきましては、売上高は4,510億円（前期比96.6%）、営業利益は234億円（前期比107.6%）、経常利益は258億円（前期比104.8%）、当期純利益は150億円（前期比108.3%）としております。なお、期末配当につきましても中間配当同様に、当初予想より1円増配し、1株当たり10円とさせていただくことを予定しております。これにより、年間の配当予想は20円となります。

以 上